



～関西大会初優勝で全国大会へ～

3年ぶりの全国の切符をつかむ

決勝は大商学園に1-0で勝利

平成22年度第19回関西高等学校女子サッカー選手権大会兼全日本高等学校女子選手権大会関西予選は6月13、19、20日に堺市立ナショナルトレーニングセンターで行われ大阪桐蔭高校は決勝で大商学園を破り出場2回目にして初優勝を飾った。1回戦^{かしま}神島(和歌山)に圧勝し、準決勝でこの大会9連覇中の強豪日ノ本学園(兵庫)に臨んだ。過去一度も勝ったことがない日ノ本に対し組織的な守備で対抗、PK戦にもつれたが勝利した。決勝戦では大阪のライバル大商学園を終了間際の得点で破った。公式戦で関西優勝のタイトルは創部初めて。

全国大会は7月25日から静岡県磐田市で開催される。

◇準々決勝(6月19日、堺NTC)35分ハーフ (カッコは前半のスコア)

大阪桐蔭高校 27-0(12-0)神島高校(和歌山)
【得失点】2分松川、3分中、12分佐藤、14分草野、14分、17分草野、24分、26分、29分、30分酒井、31分湯浅、33分酒井、42分中、46分松川、46分酒井、48分草野、49分OG、52分中、54分、56分松川、57分金井、59分鈴木、60分三木、61分松川、64分、67分金井、68分酒井

2年ぶりに出場した関西大会だったが緊張することなく開始から得点を重ね勝利することが出来た。

◇準決勝(6月20日、堺NTC)

大阪桐蔭高校 1-1(0-0)PK4-3 日ノ本学園(兵庫)

【得失点】45分得点オウンゴール、70分失点オウンゴール

準決勝は全国大会の常連校日ノ本学園(兵庫)との試合。今年10連覇がかかっている日ノ本を阻止するチャレンジャーとしてチーム一丸となり試合に臨んだ。日ノ本との対戦を顧みると3年前初めてこの大会で決勝に勝ち進んだものの0-6で敗れ準優勝、同じ年の全日本関西大会では終了間際まで2対1でリードしたがFKから追いつかれPK4-5の敗退、2年前のU-18関西大会決勝では0-3、昨年全日本関西大会決勝が0-7の敗戦と大阪桐蔭はすべての公式戦で今まで一度も日ノ本に勝利したことがなく悔しい思いをしてきた。

多くの方々が応援に駆け付け見守る

中、全国大会への切符を賭けての大事な一戦となった。前半は相手への対応を早くし守備をきっちりとして0-0で終わった。後半10分に大阪桐蔭は松川がかけたコーナーキックが相手のオウンゴールを誘い先制点をあげた。その後も粘り強く守備をしてこのままで試合終了かと思っただが、ロスタイムにオウンゴールで失点してしまった。せっかく勝利まであと数分、数秒まで追いついたのに追いつかれ3年前の悪夢がよみがえったかに見えた。PK戦では3人目に先攻の佐藤がはずしいよいよ敗戦濃くなってきたが、日ノ本もプレッシャーからかこの後のキッカーがはずした。そして、3年生仲が決め5人目最後のキッカーがゴールキーパー森のすばらしいセービングでとめて勝利となった。2年間遠ざかっていた全国大会の切符をようやく手にすることが出来た。

◇決勝(6月21日、堺NTC)

大阪桐蔭高校 1-0(0-0)大商学園(大阪)

【得失点】70分得点オウンゴール

大阪のライバル校大商学園との伝統の一戦。4月29日に行われた大阪府予選では明け方まで降り続いた雨の影響もありバスサッカーが展開できず0-1で敗れた。3年前大阪府予選決勝、そのときも東住吉総合のグラウンドは雨の影響で悪かったが、佐藤絵里の決勝点で勝利しものの、滋賀県で行われた関西大会で0-2で敗れ全国大会出場を

絶たれた。いままでの様々な思いがあり、両チームとも良いこともつらいこともあった4年間だった。同じ年に創部しきライバルとして成長してきた両チームが関西大会の決勝で試合が出来ることは光栄である。そして、これまでに刻まれた関西チャンピオンに大阪桐蔭高校の名前が刻まれるチャンスとなった。

予想通り両者譲らず両チーム無得点のまま後半が終わると思われたロスタイムで吉田が左コーナーキックを蹴ると速いボールはニアギリギリに飛び込みGKがポストとの隙間を埋められずオウンゴールとなって入った。この劇的なゴールではじめての優勝が決まった。

感謝の気持ちをもって

今回の関西大会で優勝できたのは3年生の力が一番大きかったと思う。出場機会のあまりない選手も最高学年としてチームを良く支えた。こういう自己犠牲の精神がチームを一つにまとめたのだと思う。学校関係者を始めコーチ、保護者、トレーナーの先生や卒業生の皆さん大阪桐蔭を応援してくれたすべての人に感謝したいです。全国でも優勝目指してがんばります。(監督 天野泰男)

全国大会組合せ決定

1回戦は磐田東と対戦

7月5日全国大会の組合せが決まった。1回戦は地元磐田東高校とゆめりあ多目的グラウンドで7月25日11時15分キックオフとなった。磐田東は東海第3代表で昨年度も出場している強豪校。1回戦に勝つと修徳高校(東京都/関東第4代表)と千葉学園(青森県/東北第4代表)の勝者と対戦する。なお、関西第2代表の大商学園は幕張総合(千葉県/関東第6代表)と関西第3代表の日ノ本学園は鎮西学院(長崎県/九州第3代表)とそれぞれ1回戦を戦う。

関西トップ ステューデントリーグ

(5月30日、姫路獨協大学)

大阪桐蔭高校 3-3 姫路獨協大学

【得失点】16分濱本、21分失点、22分関本、25分失点、32分失点、78分松川



INDOMITABLE SPIRIT 女子サッカー部報告 INDOMITABLE SPIRIT

今回関西予選では優勝を果たしたが、まだまだチーム・個人に足りない部分があると感じた。全国大会ではもっと強豪校がいて厳しい戦いが待っていると思う。その中でも対等に戦えるようにしていけるようにしていきたい。優勝をして嬉しい気持ちはあるが、気持ちを切り替えて全国大会に向けて頑張っていきたい。関西1位としての誇りを持ち今回優勝)したことを大阪桐蔭女子サッカー部の自信につなげていきたい。

目が始まる。負けたら終わりの戦い。厳しい中で、1日でも多く静岡(開催地)に残れるようにしたい。またチームの心を1つにして頑張っていきたい。1人でも乱す人がいるとチーム全体が乱れてしまう。1つ1つの行動に責任を持ち3年生の為に1・2年生も全力で戦っていきたい。全国大会までの残り少ない時間を悔いのないよう精一杯今何をすべきかを考えていきたい。

関西トップ

ステューデントリーグ

(5月30日、姫路獨協大学)

大阪桐蔭高校 3-3 姫路獨協大学

【得失点】16分濱本、21分失点、22分関本、25分失点、32分失点、78分松川

この試合では引き分け以上ということを試合前に話していた。

前半の早い段階で吉田からのクロスボールを濱本が落ち着いて決め先制した。そのあとすぐに追いつかれ失点してしまった。その1分後関本がひねりながらのロングシュート

を決めた。が、その後2失点してしまい前半は2-3で終わった。

後半は前半より自分たちのペースになり攻めていたがなかなかゴールネットを揺らすことが出来なかった。それでも最後まで粘り、78分に左サイドの池田が上げたクロスボールを松川が決めた。

この獨協戦でたくさんの課題が出てきた。何より前半の立ち上がりが悪かった。肝心な前半のもっていきかたを改善していかないと感じた。

全国大会

7月24日開会式で25日から第1戦